

# ONLY 1 オンリーワン 企業紹介

## TOYOSHIMA FARM

### どこまでも続く太陽と青空の下で

豊島代表はAターン後、県の研修制度である「未来農業のフロンティア育成研修」果樹コースを受講。2016年より、県内では珍しいワイン用のブドウ農家となる。地元の由利本荘市矢島町でメルロー、ピノ・ノワール、富士の夢、シャルドネ、ソーヴィニヨンブラン、北天の雫の6品種を栽培中。

#### 秋田発のワイナリーをめざして

遮るもののない山腹に降り注ぐ太陽の光。その恵みを存分に浴びて輝く約4,000本の木々には、メルローやシャルドネといった県内でも珍しいワイン醸造に適したブドウが実る。手掛けているのは、「TOYOSHIMA FARM」の豊島昂生代表だ。「農業の大変さは子どもの頃から散々聞かされてきたので、一度は全く別の道に進みました」と笑う豊島代表が選んだ道もまた、農業であった。

「大学卒業後に県外の会社に就職したのですが、体調を崩してしまい、帰省しました。始めは嫌々ながらも父の農作業を手伝ううちに太陽と青空の下、体を動かす農業の魅力に気づかされたんです。同時に、この故郷の田園風景を支えてきたのが祖父であり父であったのだと改めて感じ、自分もこの景色を残していきたいと思いました」。

目指したのは、土地の恵みを活かした次世代に続く農業。研修や他県での視察を通して、ブドウ栽培からワインの醸造・販売までを一貫して行うワイナリーの魅力を知った。そして2016年、標高200m、1haの畑から、将来の自社ワイナリー設立を見据えた豊島代表の挑戦が始まった。

#### “農業”の新しい可能性を残したい

家族や友人、地域の人たちに後押しされ、豊島代表は苦労を重ねながらも着実に夢の実現に向け、歩みを続けている。2018年には、質の高い実をつけたブドウを独自の割合でブレンドしたジュースを初めて販売。ワイン醸造用のブドウで作ったジュースは“今までに飲んだことのない味”と評判になり、約600本が10日で完売した。今年はいよいよワインの委託醸造に取り組むべく、ふるさと納税を利用したガバメントクラウドファンディングに応募。見事採択され、その夢に賛同した多くの人たちから寄付金が集まった。順調に収穫高を伸ばしたことで、ワインの他にも全国でも珍しいストレート果汁100%のスパークリングブドウジュースを販売予定だ。

「今後も企画と発想で勝負して、新しいことに挑戦していきたい。次世代の子どもたちにも農業の新しい可能性を少しでも残していけたら嬉しいです」。



代表  
豊島 昂生  
Kosei Toyoshima

#### TOYOSHIMA FARM

TEL. 080-77084706(9:00~17:00)  
FAX. 050-3450-5290  
<https://toyoshimafarm.com/>

#### 会社概要

ワイン用ブドウを栽培し、2018年度は自社ブランドのブドウジュースを製造販売。2019年度はワインやストレート果汁100%のスパークリングブドウジュースの製造販売予定。

